

都道府県名番号	17
都道府県名	石川県

【 . 】

### 学校の概要

学校名	穴水町立穴水小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	21
児童数	53	66	61	57	58	70	1	366	

### 研究の概要

#### (1) 研究主題

<p>主 題</p> <p>心豊かに活動する子 ～ 少人数授業における効果的な算数指導 ～</p>
---

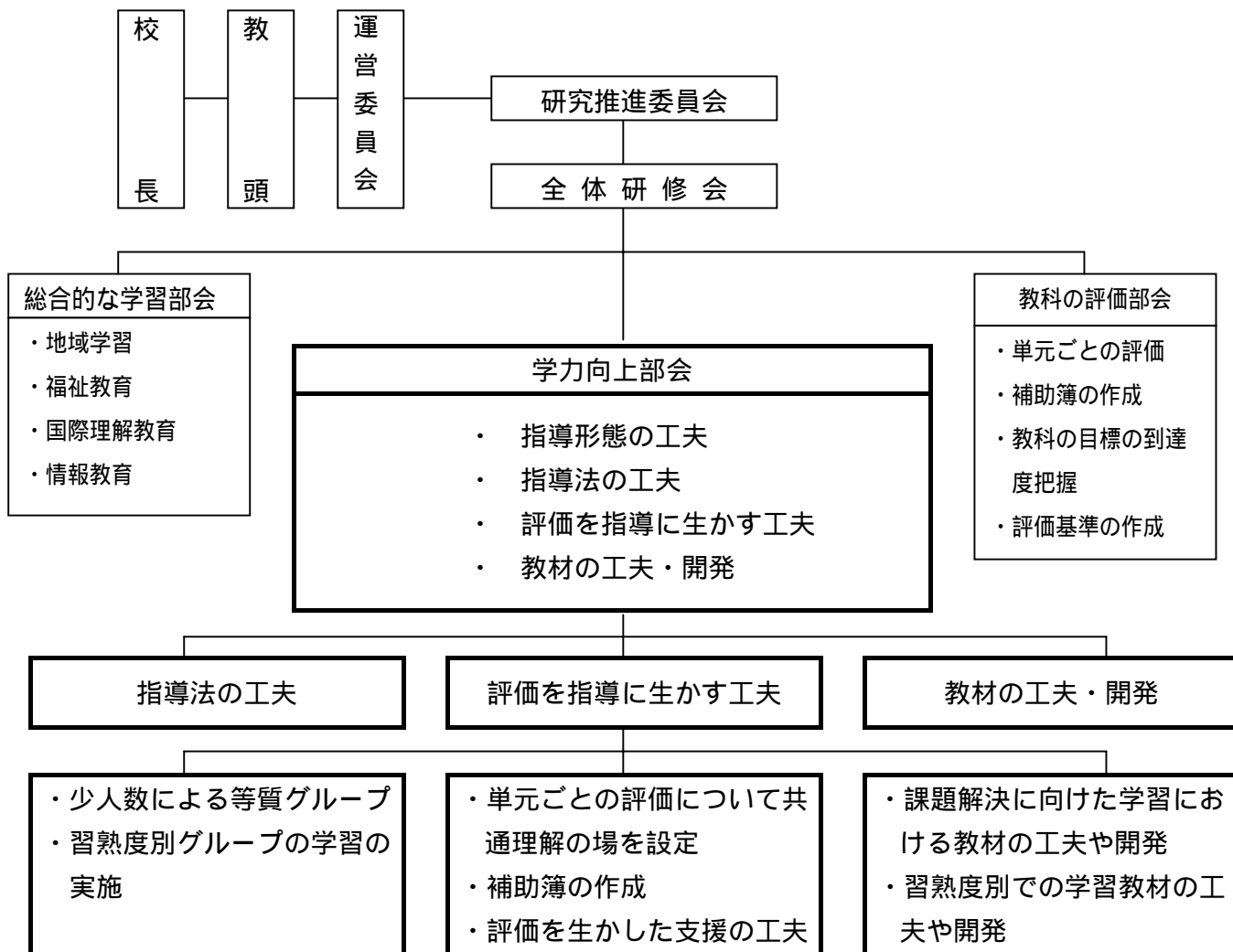
#### (2) 主題設定の理由

<p>本校の研究主題は、「心豊かに活動する子 ～少人数授業による効果的な算数指導～」である。新しい教育課程では、「確かな学力」と「心の教育」を柱に据えている。私たちは、豊かな心、即ち相手の気持ちを考えて活動できる子どもの集団の中で、はじめて自ら学ぶ意欲がわき、確かな学力が身についていくものと考えている。</p> <p>本校の児童は素直に明るくのびのびと育っている。友だちとも仲が良く遊びも活発である。しかし、学習面では、自分の考えをもっていても発表が苦手である。また、友だちの意見を認め合ったり、分からない友だちを励まし合ったりする姿もあまり見られない。</p> <p>より意欲的に学び確かな学力を身につける手だてとして、少人数授業をとり入れた。児童一人ひとりに対して、教科目標の到達状況を的確に把握し、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るために、教科の評価を充実させたい。そこで、教科や総合的な学習を通し、人や自然との関わりの中で、今までに引き続き「豊かな心の育成」を基本に据え、教師と子ども、子どもと子どもとの関係にも焦点を当てながら主題に迫りたい。</p>
---

### 研究の概要

#### (1) 研究推進体制の工夫

本校において、学力向上フロンティア事業に関しては、「学力向上部会」を中心に実践研究を進めている。それらの成果や課題については、研究推進委員会で検討し、全体の研修会で共通理解を図りながら、取り組みを行う体制をとっている。また今年度より、研究・指導体制を工夫改善し、「総合的な学習部会」「学力向上部会」「教科の評価部会」の3部会を組織した。それぞれの部会が協力しあって研究を進めている。



## (2) 研究の実際

### 指導形態の工夫

- \* 多様なコース別指導形態の導入
  - ・単元により，TT・等質グループ・習熟度別グループを取り入れる。
    - ホップ・ジャンプコース（1・2・3・4・6学年）
    - ホップ・ステップ・ジャンプコース（5学年）
- \* 習熟の程度に応じた指導を行うための児童の学力を把握する。

### 指導法の工夫

- ・1時間の学習の流れを4つの学習活動（つかむ 考える 深める 振り返る）の段階を組み，それぞれの段階で児童・教師の意識化を念頭に指導を充実させている。また，それぞれのコースで学習活動4段階の流れの中に，既習学習の生かし方，課題づくり，操作活動，支援の方法などを大切に授業を進めている。

実践例 1) 授業を展開するにあたっての「コース別での指導の工夫」

段 階	基礎・基本コース	発展コース
1 つかむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習問題の場면을理解しやすくするために、既習学習に戻って考えたり、日常的な学習の場면을想起したりして、イメージしやすくする手立てをとる。</li> <li>* 数量の大きさを検討し、児童の実態に応じた考えやすい導入課題にする。</li> <li>* 児童一人ひとりがめあてや興味・関心をもって、自分のペースでじっくり課題に取り組めるようにする。</li> <li>* 課題については、易から難へと内容を考えて扱う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 時には、条件不足の問題を提示し、学習意欲を喚起する。</li> <li>* ゆさぶりをかけるような素材提示をし、自分たちで課題づくりをする。</li> </ul>
2 考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 操作活動などを取り入れ児童に応じた理解を図る。</li> <li>* 操作活動のためにより具体的なものを準備し、一人ひとりに行きわたるように十分用意する。</li> <li>* できるだけ多くの児童が発見したり、気づいたりする喜びを味わわせるようにする。</li> <li>* じっくりと課題に取り組みながら学習を進められるように時間の保障をする</li> <li>* 児童の学習状況を把握し、つまづきを早期にみつけ、個に応じた指導を充実する。</li> <li>* 児童が支援を受けながらも課題解決できる場面をより多くし、自分で課題解決ができた充実感を味わわせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 念頭で個人追究が十分にできるように、ワークシートなどの工夫をする。</li> <li>* 自ら追究する楽しさを味わわせることを目標に、色々な考え方ができるように手立てを工夫する。(ヒントカードなど)</li> </ul>
3 深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ねらいを絞り、一つひとつのことを確実に理解できるようにする。</li> <li>* 個別指導がより多くできることから、学習に達成感を味わわせることで自信を持たせ、発表意欲につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* いろいろな手順で自力解決させ、それらの考えを比較検討したり、相互評価したりしながらまとめる。</li> <li>* 筋道を立てて説明し、より相手に理解してもらえよう発表の力を身につけていく。</li> <li>* 多様な考えの共通点・相違点を見つけ、「速く・正確・便利」をキーワードにまとめるようにする。</li> </ul>
4 振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 必要に応じて繰り返し学習をしたり、別の方法で学習し直したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 児童の個人差に視点を当て、確かな学力を保障するために発展教材を準備する。</li> <li>* 新たな課題を見出したり、他の場面に生かしたりできるようにする。</li> </ul>

実践例 2) 少人数編成による 5 学年 算数科 「小数のわり算」

指導計画（総時数 9 時間 本時 7 / 9）

本時のねらい・小数の除法の答えを概数で表すときの処理のしかたを理解する。

	<ホップコース>	<ステップコース>	<ジャンプコース>
課 題	・あまりが出るときの小数の割り算のしかたを考えよう。	・答えを上から 2 けたのがい数で表すときは、上から何けた目を四捨五入すればよいか考えよう。	・10 分の 1 の位までの小数 ÷ 100 分の 1 位までの小数の計算のしかた、筆算のしかたを考えよう。
学 習 活 動	・具体的場面を絵図やヒントカード、操作活動を通してあまりの大きさを考える。	・上から 2 けたのがい数は、3 けた目を四捨五入すればよいことを知る。	・発展的な問題を、既習を生かして解決する。

平成 15 年度の研究成果及び今後の課題（指導法を中心に）

(1) 研究成果

指導法の工夫

- ・事前の打ち合わせを充実させることで、様々な考えを話し合うことができた。教材・教具、課題、支援などの手だてなどを工夫し、授業に臨めるようになった。
- ・それぞれのコースに応じ、自力解決する時間を保障することで、課題解決ができた充実感を十分味わうことができ、理解を深めることができた。
- ・多様なコース別の学習形態をとることで、つまずきの原因が見え易く、個に応じながらの学習を進めることができた。
- ・「授業がよく分かる、どちらかといえば分かる」と答える児童が 93.5% いる。「算数が好きになった。よく分かるよ」など、学習に対する意欲の高まりが見られ、テストの結果も一人ひとりに伸びが見られるようになった。

(2) 今後の課題

指導法の工夫

- ・教材研究を深め学力向上に努めてきたが、今後は 1 時間の流れの中で重点となる段階を見極めて学習を進めたい。
- ・単元の中でのコース別学習が生きるような研究を深めていきたい。学び合いが深まるような効果的なグループ活動の取り組みも考えていきたい。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・PTA 総会： 「少人数学習」についての説明（4 月）
- ・授業参観： 少人数授業の公開（11 月・2 月）
- ・研修会： 講師 金沢大学助教授 松原 道男氏（12 月）
- ・学校だより・学級通信で、随時保護者に知らせる。
- ・町指定の研究発表会で習熟度別授業を公開の予定（平成 16 年 10 月予定）

【新規校・継続校】	・ 15年度からの新規校	14年度からの継続校	
【学校規模】	6学級以下 ・ 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級	
【指導体制】	・ 少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他	
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	・ 算数 図画工作 理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		・ 有 無	

【特色ある取組事例として紹介したいポイント（都道府県教育委員会記入）】

- ・ 単元の特性を生かし、習熟度別少人数指導を中心にしながら、等質グループやT.T等、多様な学習形態を工夫するとともに、4段階の基本的な学習過程「つかむ」「考える」「深める」「振り返る」の流れの中で問題解決的な学習に取り組んでいる。
- ・ 習熟度別少人数指導では、それぞれのコースにおける4段階の学習過程の「児童意識」「教師の意識」「指導の工夫」を明確にし、共通理解を図りながら実践が行われている。